

動物

の

診察室

から

○ 37 ○

きょう、アメリカから2台の車いすが届きました。これは、ダックスフントの「リン君」と「レックス君」がリハビリをするのに使うものです。

ダックスフントは、ほかの犬種に比べ、椎間板ヘルニアを起こしやすい犬です。

リン君は2歳の男の子です。4月に後ろ足の麻痺が始まり、どんどん進行していききました。診察した時にはすでに痛覺

人の場合に、椎間板ヘルニアは腰の下の部位で起こります。そしてその部位の脊髄は馬尾といっ

て神経が細くなっているので、症状は痛みやしびれです。

犬の場合は、胸椎の終わりから腰椎の前の部分に起きることが多く、その部位は脊髄が太いために、飛び出た椎間板により脊髄損傷が起こります。重症の場合には、ある日突然後ろ足が立たな

はなくなっており、すぐに外科手術となりました。手術後痛覺は出てきたのですが、1カ月たっても歩くことはできませんでした。後はリハビリをするのですが、リン君のお姉さんはリン君をとてもかわいがっており、何とかしてリン君が歩けるようにと、自宅で1日

2時間以上リン君にリハビリを行いました。そしてその努力のおかげで、少しずつ後ろ足の反応が出てきたのです。立てなくなってきたから5カ月になりましたが、今は支えてあげると後ろ足を交互に動かせるようになりました。

犬用の車いすは後ろ足が立たなくなった場合に使うのですが、リン君のように少し後ろ足の反応が出てきた犬に車いすを着けて歩かせてあげるのと、それがリハビリになり回復を助けるのです。

リン君も、レックス君も1カ月ほどで車いすなしで歩けるようになります。リン君のお姉さん、がんばりましたね！お姉さんの懸命な努力が、リン君の足を回復させたのです。

がんばって歩くなえ!

車いすを着けリハビリ



初めて車いすを着けたレックス君

てしまいました。再度手術を行いました。その後の経過はあまりよくなく立つことはできませんでした。しかし、病院で

お湯の中でのリハビリを1週間に3回行い、その間に

